

会 議 録

会議の名称	令和6年度 第5回和泉市総合教育会議
開催日時	令和6年12月26日（木）午後2時15分から午後3時45分まで
開催場所	市役所3階 3A・3B会議室
出席者	[構成員] 辻市長、大槻教育長、深堀教育長職務代理者、中西教育委員、小谷教育委員、木村教育委員 [事務局] （教育委員会） 並木参与、辻教育次長兼生涯学習部長、東教育・こども部長、上田教育指導監、阪下学校教育室長、仲谷教育指導担当課長、福元教育指導担当主幹、鍛冶教育・こども部次長兼教育総務課長、大西教育総務課長補佐兼総務係長、吉田教育総務課企画係長、西川教育総務課主事 （市長部局） 門林政策企画室長、福田企画経営担当課長、中企画経営担当総括主査
会議の議題	（1）学校のICT活用について （2）本市における生徒指導上の課題の対応について（非公開）
会議の要旨	・第4回会議のふり返りと学校教育情報化推進計画（案）に盛り込む内容について意見交換を行った。 ・本市における生徒指導上の課題の対応について、意見交換を行った。
会議録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
その他の必要事項	会議公開・傍聴者1名

1. 辻市長から、開会の挨拶

2. 事務局（市長部局）から「第4回総合教育会議のふり返し」について説明

3. 事務局（教育委員会）から「学校教育情報化推進計画（案）」について説明

4. 意見交換

【大槻教育長】

- ・ICT化によって子どもが幸せになるわけではない。
- ・教育目標である子どもの幸福のための一つの手段であることを理解したうえでICT化を進めてほしい。

【深堀職務代理者】

- ・目次、第二章において基本的な方針が書かれているが、どのような取組を行うか読み取りにくい。初めて見る人でも分かりやすい工夫をしてほしい。
- ・他の自治体の計画期間は3年としているところもあるが、本市は何故5年とするのか。

【事務局（教育委員会）】

- ・目次については見やすいように検討する。
- ・子どもの端末入れ替えに合わせて、計画期間を5年としている。技術革新に対応して、改定することも想定している。

【西家委員】

- ・P7の図は教師や保護者にとってイメージしやすく分かりやすい。
- ・ICT教育において、インタラクティブにツールを使い、みんながつながっていくところがアピールできるところ。
- ・従来の教育と異なるところをどうシームレスに乗り越えていくかが大切。
- ・ICT教育が向いているものとそうでないものがある。今後出てくるであろう成果について、どういうところが伸びるのか、または、伸びないのか、従来教育と比べてどうなのか評価することで説得力が出てくるのではないのか。

【事務局（教育委員会）】

- ・計画の効果検証は必要であり、どのような指標をもって達成度合いを評価するのか検討が必要であると考えている。

【西家委員】

- ・サポートを必要とする子どもばかり関わるのではなく、教師と子ども双方向性にすることで、どちらのモチベーションも維持できると思う。

【中西委員】

- ・誰一人取り残さない視点が明示されてことは評価するが、具体的にどのように取り組んでいくのかももう一歩踏み込んでほしい。
- ・実施計画のようなものはつくるのか。
- ・SAMRモデルという言葉は分かりにくく、何に取り組もうとするのかイメージしにくい。

【事務局（教育委員会）】

- ・実施計画というわけではないが、成果指標を評価できるようにする予定。
- ・本計画は、授業の中でICTをどのように活用していくか具体的な内容について記述するというよりも、理念計画として記載している。
- ・全ての教員が理解できるように、分かりやすい言葉や表現になるよう検討していきたい。

【小谷委員】

- ・計画策定の目的に市の運営方針としてデジタルについてどう考えるかを記載することが重要だと考えるが、本市は方針を出しているのか。
- ・目的のところに本市がデジタル化を進めていることを掲載してはどうか。

【辻市長】

- ・フルデジタル化を進めていく方針。
- ・人材確保が困難な中で、デジタル化を進めることで、人為的なミスを減らすなど、市民サービスの低下を防ぎたい。

【小谷委員】

- ・ダッシュボードについて、教員と児童とどちらの視点で書かくかはっきりさせておいて方がよい。
- ・AI活用利用について「慎重に」と記載されているが、およびごとみられるような印象がある。これからどうAIをうまく使うかによって世界と差が出てくるはず。世界と伍していけるような人材を育てていくというような視点にたって、「うまく使いながら」といったポジティブな記載があってもいい。
- ・インフラやセキュリティ面について記載が必要なのではないか。

【事務局（教育委員会）】

- ・教員と児童で使うシステムは同じものを考えているが、提示方法や提示内容は分ける予定。
- ・AIはポジティブに使っていく必要があると考えているので、記載方法についても検討する。
- ・インフラ、セキュリティについてIT活用推進担当と協力しながら進めており、表現できるように工夫していきたい。

【木村委員】

- ・PI6教員の働き方改革について、デジタルで効率化することで子どもたちにとってどういうメリットがあるのか記載がほしい。

【事務局（教育委員会）】

- ・子ども支援や学力向上に注力できることが働き方改革の一番の目的なので、表現を考え、修正していきたい。

【辻市長】

- ・協働的な学びをドリルアプリを使ってどのように実現していくのか。

- ・ I C T を使っていく具体的なイメージがないといけないと思うがどうか。

【事務局（教育委員会）】

- ・ 協働的な学びについては、授業支援アプリであるロイロノートなどを使って効果的にすすめることができる。
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びは I C T の活用のみで実現できるものではない。
- ・ 教員への研修も重要だが、事務局と教員が一体となって進めていくことで本来の目的が達成できるようにしたい。

【小谷委員】

- ・ P 7 に記載されている「協働で課題解決」の絵は、デジタルを使ったイメージになっていない。グループで話し合っている絵の方が協働のイメージに合うのではないか。

【事務局（教育委員会）】

- ・ 委員の意見も踏まえ、伝わりやすいものを検討していきたい。

5. 本市における生徒指導上の課題の対応について

< 非公開 >

【事務局（市長部局）】

○以上をもって、令和6年度第5回和泉市総合教育会議を終了する。

< 終了 >